



～地域とともにある学校をめざして～

鯿コミ

R5 CS通信No.3 R5.5.26



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

初めての田植え作業(西海小5年生)



町教育委員会が進める「ふるさと学習」五本柱の一つ「町の営み」を学ぶ体験として、5/16(火)西海小5年生が、初めて田植え作業を行いました。

実施にあたっては、学校から「昔の手植えや鎌での稲刈りを体験させたい」という要請を受け、西海小担当の地域学校協働推進員(コーディネーター)の工藤律子さんが、地域の関係機関や人々に協力をお願いして実現したものです。

今回協力して下さったのは、田んぼ所有者である中村地区の工藤智紫さん、作業指導のJA つがるにしきたの神さん、そして、8名の学校支援ボランティアの方々です。

工藤さんは、当日朝早くから田植え作業の準備を行い、児童に手植えさせる場所を確保してくださいました。また、神さんは、苗の植え方を説明したり、植える所に型をつけたりする作業を指導してくださいました。学校支援ボランティアの方々には、手際よく田植えできるように、植え方を教えたり、近くに苗を運んだりしていました。

学校では、今回の田植え体験学習を生かして、米作りの学習を進めたいということでした。

鯿ヶ沢を盛り上げる鯿中運動会



5/20(土)鯿ヶ沢中学校の運動会がありました。当日は、天気にも恵まれて、PTAの他にたくさん、地域の方が訪れ、運動会を楽しんでいました。

運動会の目標の一つに

「鯿中生としてのがんばりを見せ、鯿ヶ沢を盛り上げる。」

という文言がありました。地域の方々が集うふれあいテントの中から声援を送っていた方は、

「子どもたちからたくさんの元気をもらいました。来てよかったです。」

と笑顔で話していました。

鯿ヶ沢甚句で学校を通した地域の活性化



鯿ヶ沢甚句は、教科体育と関連したふるさと学習として、鯿ヶ沢町の小中学校全学年で実施しています。このため、伝統芸能の継承が図られているとともに、児童生徒が、踊りを披露することで、学校を通した地域の活性化につながっています。

5/22(月)舞戸小学校で、鯿ヶ沢無形文化財保存会による鯿ヶ沢甚句の指導がありました。

鯿ヶ沢甚句は、運動会の集団演技として全校で踊ったり、5・6年生が中学生・高校生と合同で流し踊りをしたりします。

今回は、舞戸小担当の地域学校協働推進員(コーディネーター)の渋谷貴子さんが保存会事務局に協力をお願いして、保存会会員8名の参加・協力がありました。

保存会の皆さんからは、足の動きに気をつけること、指先に力を入れること、指の方を見ること等のアドバイスがありました。踊りの練習では、体育館の後ろに下がり、前の方に移動しながら踊ったり、円を作って輪になって踊ったりしました。